

# 知的障害のある高校生が 自己の現状や課題を認識するための取組

— 職業の授業における行動目標を明確にしたステップシートと  
生徒と教員との振り返りを通して —

久保山 理菜<sup>1</sup>

特別支援学校高等部の教科「職業」では、職業に係る自己の現状を認識した上で課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力の育成が求められている。しかし、所属校では、知的障害の特性である抽象的思考やメタ認知の困難さなどから、生徒が職業に係る自己の現状や課題を十分に認識できていなかった。そこで、行動目標を明確にしたステップシートと、生徒と教員との振り返りを通して、生徒が自己の現状や課題を認識することを目指し、一定の成果を得た。

## はじめに

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」では、「特別支援学校高等部においては、個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援の下で、適切なキャリア教育・職業教育を行うことが重要である」(中央教育審議会 2011)としており、キャリア教育・職業教育を充実する必要性が指摘されている。また、「特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年告示)」の中では、知的障害特別支援学校における職業の目標を「将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う」と示している。さらに、国立特別支援教育総合研究所(2011)の「知的障害のある児童生徒の『キャリアプランニング・マトリックス(試案)』」には、人間関係形成能力の中で高等部段階において育てたい力の一つに「職業との関係における自己理解」が掲げられている。このように、高等部段階では、職業に係る自己の現状を認識した上で課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力の育成が求められている。

しかし、所属校では、生徒の立てた目標が、教員から見た生徒の課題解決に向けて必要となる目標とかけ離れていたり、教員の例示した目標をそのまま自分の目標に設定したものであったりするなど、教員の客観的な評価と生徒の自己評価に大きな差があった。そのため、生徒が教員や保護者からの助言等を素直に受け入れることができなかつたり、現実的ではない進路に固執したりするなど、進路選択や卒業後の職業生活に影響を及ぼすケースがあった。その背景として、知的障害の特性である抽象的思考やメタ認知の困難さ、成功経験が少ないことなどによる主体的に活動する意欲

の育ちにくさが挙げられる。

そこで、知的障害のある生徒が自己の現状や課題を認識するための手立てについて先行研究を基に考え、次のような研究の目的を設定した。

## 研究の目的

知的障害のある生徒に行動目標を明確にしたステップシートを使用し、併せて教員との振り返りを行うことが、生徒自身の現状や課題を認識することにつながるのかを明らかにする。

## 研究の内容

### 1 先行研究

#### (1) 自己理解を促す支援

向後は、「自己理解は障害の有無にかかわらず、単独では難しく、経験を通して、また、他者との比較や客観的な評価の基準、他者の視点を知ることで深まっていく」(向後 2014)と述べている。

このことから、客観的な評価の基準としてステップシートを作成し、さらにステップシートへ他者の視点を記入することで、生徒が自己の現状や課題を認識することができると考えた。

#### (2) メタ認知の支援

知的障害児のメタ認知の支援について、菊野(2020)は、自らの体験を記録し振り返るという活動が、メタ認知を活性化し促進すると述べている。

このことから、体験的な活動の後に行動を振り返ることが有効な手立てになると考えた。

#### (3) 「具体的」「視覚的」「肯定的」な支援

『特別支援学校学習指導要領(平成31年告示)解説 知的障害者教科等編(上)(高等部)』(以下、『解説』という)には、「具体的に思考や判断、表現できるよ

うにする指導が効果的である」(文部科学省 2020)と示されている。また、文部科学省(2021)「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」には、情報・コミュニケーション及び教材の配慮として、視覚化の活用が挙げられている。さらに、国立教育政策研究所(2015)は、行事や学習に取り組む際に、生徒に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが認めるという行為では重要になるとしている。

これらのことから、振り返りの際に「具体的」「視覚的」「肯定的」なフィードバックを行うこととした。

#### (4) 主体的に活動する意欲を育むための支援

『解説』では、「学習の過程では、生徒が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛したりすることで、生徒の自信や主体的に取り組む意欲を育む」(文部科学省 2020)ことが重要としている。

このことから、生徒の自信や意欲を育むには、生徒が取り組もうとしていることを教員が認め、肯定的に関わることが重要であると考えた。

## 2 手立て

### (1) 行動目標を明確にしたステップシート

自分が目指す行動を具体的に知ることや自分の現状や課題を認識するために客観的な評価を知ることをねらいとした。

ステップシートは、職業の授業に係る生徒の行動目標を5段階で示したループリック形式のシートである(図1)。作成は筆者が行い、就労支援などを目的として作成された複数のシートとこれまでに所属校がまとめた「職業の授業で生徒に身に付けてほしい資質・能力」の内容を参考にした。所属校の生徒の実態や職業の授業で目指したい姿を踏まえて、特別支援学校での指導経験がある総合教育センター所員と所属校の教員の助言を得ながら内容や表現を整理した。

### (2) 生徒と教員との振り返り

生徒と教員との振り返り(以下、振り返りという)は、自分の行動を他者の視点を取り入れて振り返ることをねらって設定した。その中で、教員から認められる経験を重ね、主体的に取り組む意欲を育むこととした。

前述の先行研究を基に、教員が生徒と振り返り際の言葉掛けや情報提示の仕方が「具体的」「視覚的」「肯定的」となるように共通認識を

図った。また、教員の関わりが指導的・誘導的にならないように、生徒の言葉を引き出しながら振り返りを行うこととした。その際、映像を活用し、生徒が自分を客観的に見ることで、気づきを促すことができるようにした。特に、「肯定的」なフィードバックについては、認識にずれが生じないように、検証授業の前に教員間で具体的な確認を綿密に行うとともに、「良さ」に注目した伝え方について記載されている会沢・岩井(2014)の文献を基に共通認識を図った。

## 3 研究の仮説

これらを踏まえて、次のように仮説を立てた。

行動目標を明確にしたループリック形式のステップシートを使用し、併せて教員が「具体的」「視覚的」「肯定的」に生徒と振り返りを行うことで、知的障害のある生徒が自己の現状や課題を認識することができるだろう。

1. 身辺について					
	1	2	3	4	5
1 体調の管理	周囲の人から言われて体調の変化に気づく	自分では伝えられないが体調の変化に気づく	体調の変化に気づいて体調が悪いとなんらかの表出をする	体調の変化に気づいて自分から他者に伝える	体調の変化に気づき自分はどうしたいか他者に伝える
2 身だしなみ	周囲の人から言われて身だしなみの乱れに気づく	身だしなみの乱れに気づいて他者に直してもらう	言われれば自分で身だしなみを整える	自分で身だしなみを整える	自分で身だしなみを整えて鏡で確認する
2. 仕事に関して					
	1	2	3	4	5
1 出席状況	遅刻・欠席・早退月に8回以内	遅刻・欠席・早退月に4回	遅刻・欠席・早退月に2回	遅刻・欠席・早退月に1回	遅刻・欠席・早退月に1回もない
2 持続力	1時間程度なら作業を続けられる	作業速度は落ちるが半日作業を続けられる	作業速度は落ちるが1日作業を続けられる	一定のペースで半日作業を続けられる	一定のペースで1日作業を続けられる
3 正確性	ミスは多いが自分がミスしたところがある	周囲の人から言われてミスを減らせる	周囲の人から言われてミスなく作業する	ミスしないように自分で工夫しミスを減らせる	ミスしないように自分で工夫しミスなく作業する
4 指示理解	1つずつ手順と一緒に確認すると指示がわかる	個別指示を聞けば指示がわかる	全体指示と手順書があれば指示がわかる	全体指示を繰り返し聞けば指示がわかる	全体指示を1回聞けば指示がわかる
5 ホウレンソウ	自分からは行動できないがホウレンソウが必要な場面だとわかる	自分から合図をして気づいてもらうのを待つ	伝え方が分からないが自分から合図する	伝え方が分かり自分からホウレンソウをする	自分から相手に身体を向けて止まってホウレンソウをする
6 ルールを守る	ルールがあることがわかる		ルールを守れないこともあるがルールを守ろうとしている		決められたルールを守ることができる
3. 対人関係について					
	1	2	3	4	5
1 あいさつ	相手の方を見る	おじぎをする	知っている人には自分からあいさつする	だれに対しても自分からあいさつする	いつでもだれに対しても相手の顔を見て自分からあいさつする
2 返事	返事はできないがうなづくことができる		できないときもあるが返事ができるときもある		いつでも返事ができる
3 ていねいな言葉	友だち口調で話す	友だち口調とていねいな言葉どちらも使って話す	言われればていねいな言葉で話す	目上の人にはていねいな言葉で話す	だれに対してもていねいな言葉で話す

図1 ステップシート

## 4 検証授業

### (1) 概要

【期 間】令和5年9月14日(木)～10月12日(木)

【対 象】平塚支援学校 知的障害教育部門  
 高等部 第1学年 1グループ(10名)  
 (10名のうち3名を抽出して変容を分析)

【教 科】職業

【単元名】「自分を知ろう」

【時 数】18時間(50分授業)

【授業者】筆者及びサブティーチャー3名

職業の授業は、1年間を通して「知識を身に付ける座学」と「実際に活動する作業(以下、作業という)」を行っており、作業は、清掃班、農園芸班、受注班の3班に分かれている。検証授業は10名の生徒を対象としたが、検証対象は作業で清掃班に属する生徒3名とした。

検証対象の3名は、高等部から特別支援学校に入学した。教員や生徒間における日常的なコミュニケーションは成立する。指示理解については、全体への口頭指示で概ね理解し行動することができるが、情報が多い場合や指示が複雑な場合は、個別指示や視覚支援が必要である。

### (2) 検証授業及びその前後の流れ

検証授業及びその前後の流れは図2のとおりである。

授業者での事前打合せ		—ア	
検証授業	①	ステップシート1回目 【振り返り①】	—イ
	②～⑥	作業5日間 【振り返り②～⑥】	—ウ
	⑦	ステップシート2回目 【振り返り⑦】	—エ
生徒への事後アンケート			
教員への聞き取り			

図2 検証授業及びその前後の流れ

#### ア 授業者での事前打合せ

授業者4名で事前打合せを3回実施した。

1回目は、ステップシートの評価基準や生徒の実態に合わせた内容及び表現を検討し見直した。2回目は、教員による評価に客観性を持たせるため、対象生徒のステップシートの評価をすり合わせた。生徒の様子を共有しながら、どの段階に当てはまるのかを話し合い、教員による客観的な評価(以下、客観的評価という)を記入した。3回目は、教員が生徒と振り返る際の言葉掛けや情報提示の仕方について、筆者から詳細な説明を行った。

#### イ ステップシート(1回目)の記入と【振り返り①】

ステップシートは検証授業①及び⑦の座学の中で扱った。検証授業①では、将来の職業生活に向けて必要な知識を学んだ上で、生徒がステップシートの5段

階の達成状況について考え、当てはまるマスに丸を記入した。その後、教員があらかじめすり合わせた客観的評価の当てはまるマスに別の色で丸を記入し、マスの差が視覚的に比較できるようにした。生徒が自己認識の状況を確認し、客観的評価との差を知ることをねらった。

生徒には、「できる」「できない」ではなく自分の「得意なこと」「苦手なこと」を知ること、自己評価と客観的評価のどちらが正しいということではなく、他者の視点を知ることが重要であると伝えて実施した。

#### ウ 作業5日間と【振り返り②～⑥】

作業では、年間を通して毎回日誌に目標などを記入している。検証授業②～⑥では、授業のはじめにステップシートの目標を意識した上で生徒が作業の目標を立て、作業に取り組んだ。作業終了後の【振り返り②～⑥】の中で、その日の自分の行動を振り返り、次の目標を設定した。この流れを5日間行った。

【振り返り②～⑥】を行うねらいは、生徒にとって記憶が鮮明なうちに教員の視点を含めて振り返ること、自分の行動をより客観的に知ることである。その中で、認められる経験をすることで主体的に取り組む意欲を育むことをねらった。

#### エ ステップシート(2回目)の記入と【振り返り⑦】

イと同様の内容で実施した。検証授業⑦は、5日間の作業後に生徒が自己認識の状況を確認し、客観的評価との差を知ることをねらった。さらに、1回目からの変化に注目し、どれだけ自己の現状や課題を認識できたかを知ることを目的とした。より高い目標を目指すことは目的としていない。自己の現状や課題の認識について、表1に示す基準と比較した。

表1 自己の現状や課題の認識を比較する基準

差が大きくなった場合	→	自己評価と客観的評価に差がある
差が小さくなった場合	→	自己の現状や課題を認識しつつある
評価が一致した場合	→	自己の現状や課題の認識が概ねできている

## 5 検証結果

仮説の検証にあたっては、ステップシート、事後アンケート、教員への聞き取り、作業日誌の記述内容及び映像記録より、次の(1)ア～エ及び(2)の視点で分析を行った。まずは、(1)で手立てとしたステップシートと振り返りについて検証を行う。次に、(2)で目指す生徒像について検証を行う。

### (1) 手立ての検証

#### ア 客観的評価との差異を知ることができたか

生徒Aは、【振り返り①】で「違うところが多いです」と自己評価と客観的評価との差が大きいことに気付いた。【振り返り⑦】では、自己評価と客観的評価

が一致した項目が増えたことから「そろっているところ多いっすね」という発言をした。

生徒Bは、【振り返り①】では差異についての発言はなかったが、【振り返り⑦】では「自分の付けたところと先生の付けたところが一緒のところが多かった」と表現した。さらに、事後アンケートでは、「あらためて自分の(考えている)ことと、先生の考えていることが違うとわかりました」と記入しており、客観的評価を基に他者の視点に気付いたと考えられる。

#### イ 自分の行動を振り返ることができたか

事後アンケートでは、対象生徒3名全員が振り返りをすることで自分が今できていることやできていないことを知ることができたと回答した。教員への聞き取りでも、対象生徒全員が自分の行動について振り返ることができたと評価された。

生徒Cは、「あいさつ」の項目において「だれに対しても自分からあいさつする」という自己評価をしていたが、【振り返り①】で教員が「知らない人のときはどう？」と掘り下げると、「声が小さくなっちゃう」と自分の行動を具体的に振り返ることができた。

生徒Bは、【振り返り①】において、自分の行動を振り返ることが難しい様子が見られた。教員の「手順書を見るのと話を繰り返し聞くのはどちらが分かりやすい？」という質問にも「ん〜」と悩んで黙り込んだ。しかし、【振り返り⑦】では、「ハウレンソウ(報告・連絡・相談)を自分から言えるようにするのが難しかった」や「(【振り返り②~⑥】の中で)指さし確認するって言った気がする」と以前より自分の行動を振り返ることができた。ステップシートで行動目標を明確にし、【振り返り②~⑥】で、教員がその日の取組について具体的に問いかける関わりを繰り返すことで、自分の行動について表現できるようになった。このことから、自分の行動に対する意識が高まったと考えられる。

さらに、【振り返り⑦】では、映像の活用も有効であった。生徒Bは教員に挨拶を褒められていたが、そのことを尋ねると覚えていなかった。そこで、映像記録を活用し、確認すると、目の前を通った教員に対して作業の手を止め、身体を向けて聞こえる声で挨拶をしていたこと、その教員に「挨拶が素晴らしいね」と言葉を掛けられたことを思い出した。生徒Aや生徒Cも、自分が目標に向かって作業できている姿や努力している姿を映像で確認し、教員に言語化してもらうことで、自分の実際の行動を知り、振り返ることができた。このことは、自分の行動を客観的に認識することにつながったと考えられる。

#### ウ 具体的な目標を立てることができたか

生徒への事後アンケートでは、全員がステップシートから作業の目標を立てることができたと回答した。教員への聞き取りでも、対象生徒全員が具体的な目標

を立てられていたと評価された。

生徒Cは、検証授業前の作業の目標を「ていねいに作業する」と抽象的な内容に設定していた。検証授業がスタートし、ステップシートで自分の行動目標が明確になったことにより、作業の目標を「知っている人だけじゃなく、だれにでも自分からあいさつする」と設定した。ステップシートによりこれまで気付かなかった自分の課題に気が付き、現状に見合った具体的な目標を設定することができた。

生徒Aは、検証授業②の作業1日目に、「ミスせずにしゅうちゅうせいかくにおこなう」と目標を設定した。しかし、その日の作業では掃き残しがあった。【振り返り②】で、「ミスしないためには何をしたらよいと思う？」と教員が具体的に問いかけると「確認することが必要」と自分で気付くことができた。このことから、2日目の作業では、「作業にしゅうちゅうし、とりこぼさないようにかくにんをしっかりとる」という具体的な行動を含めた目標を立てることができた。

目標や作業での様子を共有し、教員が生徒の改善策を引き出す問いかけをすることで、生徒の立てる目標が具体的になったことが分かった。

#### エ 主体的に取り組むことができたか

中央教育審議会(2019)は、「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」の中で「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際の基本的な考え方について、二つの側面を評価することを求めている。粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとしている側面である。

生徒Aは前述のとおり、1日目の作業で掃き残しのミスがあったため、次の目標を「作業にしゅうちゅうし、とりこぼさないようにかくにんをしっかりとる」とした。確認をすることでミスをなくすという改善策を自分で考えていた。そして、2日目以降は掃き残しがなくなった。【振り返り②~⑥】の中で、教員が生徒の頑張っていたところを「ここが良かった」や「目標を意識して取り組んでいたね」などと細かく伝えると、さらに、教員に報告する前に複数回確認したり道具の使い方を試行錯誤しながら取り組んだりする様子も見られた。凹凸がありごみ取りにくいフロアでも道具の使い方を工夫し、時間が掛かっても最後まで諦めずに取りきることができた。

生徒Cは、教員への聞き取りの中で、「目標に向かって積極的に行動することができた」という評価だった。また、【振り返り④】の中で、「挨拶の声が小さくなっている」という自分の行動を振り返る発言があった。自分で行動を振り返り気付くことができたことを教員が認め、教員も同様に感じていたことを伝えると、次の目標を「大きな声で、あいさつする」と設定した。

振り返りの中で教員が、頑張っていることやできたことを具体的に伝えて肯定することで、自分で行動を調整しながら粘り強く最後まで取り組もうとする意識が見られた。

## (2) 目指す生徒像の検証

(1)を踏まえ、目指す生徒像「自己の現状や課題を認識すること」についての検証を行う。

1回目と2回目のステップシートにおける自己評価と客観的評価の差をマスで比較した(図3)。2回目は、1回目比べてマスの差が大幅に減少した。マスの差が減少したということは、自己評価と客観的評価の差が小さくなったということで、自己の現状や課題を認識しつつある状態だと言える。

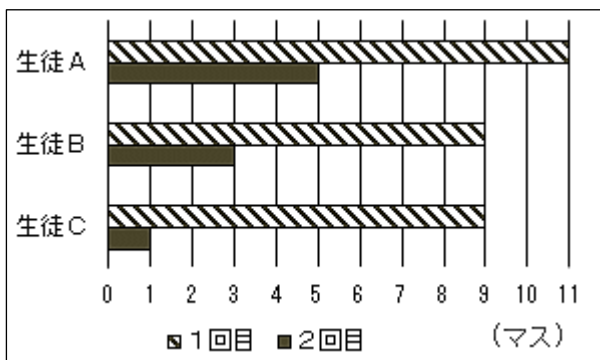


図3 ステップシートのマスの差の変化

次に、1回目と2回目のステップシートにおける自己評価と客観的評価の一致項目数を比較した(図4)。3名とも一致した項目が倍近くに増加した。自己評価と客観的評価の一致した項目数が増加したことから、自己の現状や課題の認識が概ねできていると言える。

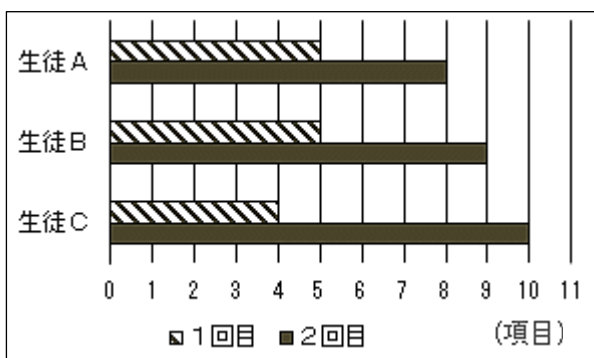


図4 一致項目数の変化(全11項目)

さらに、自己の現状や課題の認識につながったと感じる場面があった。生徒Aは、前述のとおり一致項目数は増加しているが、1回目で一致していた「ホウレンソウ」の項目が2回目では差が開いていた。生徒に詳しく尋ねると、作業後の振り返りを繰り返す中で、「ホウレンソウ」は教員だけでなく一緒に作業をする他の生徒に対しても重要であるということに自ら気づき、分かりやすく伝える難しさを感じ始めていた。「ホウレンソウ」という行動目標について、自分なりに具体的に考えることで、新たな考えに気づき、視野を広げるにつながった。

## 6 研究の考察

行動目標を明確にしたステップシートの使用は、生徒が自分の行動を振り返る手掛かりとなったことが分かった。一定の基準を示すことは、生徒が自分の行動をより具体的に認識することにつながったと考えられる。また、自己評価と客観的評価を1枚のシートに記入したことで、差異がより分かりやすく伝わり、他者の視点を知ることにつながったと考えられる。

その上で振り返りを行い、他者の視点を受け入れながら自分のできていることや課題、今後頑張りたいことを表現する様子が見られた。生徒自身はできていないと思っていたことが、実際にはできていたという生徒の気づきにつながる場面もあった。ステップシートの行動目標を基に、毎時間振り返りを行うことが、自分の行動を具体的に振り返り、作業の場面で主体的に目標を設定することにつながったと考えられる。

さらに、教員が生徒の話を否定せず、肯定的に受け止め、頑張っているところや良いところを具体的に伝えることで、生徒から「たくさん話ができ」「先生がたくさん話を聞いてくれて一緒に考えてくれたのが良かった」などの発言があった。自分の話を受け止めてもらえたり、認めてもらえたりすることで、自らの気づきを目標に反映させ、次の作業に取り組もうとする前向きな行動や意識の変容が見られた。振り返りを行うことが、目標に対して主体的に取り組む意欲につながったと考えられる。

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

本研究は、知的障害のある生徒が自己の現状や課題を認識することを目的に、行動目標を明確にしたループ形式のステップシートを使用し、併せて教員が「具体的」「視覚的」「肯定的」に生徒と振り返りを行った。検証の結果、知的障害のある生徒が自己の現状や課題を認識することにつながったと考えられる。

また、生徒が自分で立てた目標を達成できたことや自分に取り組んだことを認めてもらえたという体験を積み重ねたことが自己の現状や課題を認識することにつながったと考えられる。

さらに、教員への聞き取りから、生徒が頑張りたい、目標にしたいと思った点を教員が的確に把握できたことが分かった。視点が焦点化されたことで、生徒が頑張っている姿や成長している姿が以前よりも見取りやすくなった。このことから、教員が生徒の新たな姿に気づききっかけになったことも分かった。

### 2 研究の課題と今後の展望

#### (1) 教員の関わりについて

知的障害のある生徒が自己の現状や課題を認識する

ためには、教員の意図的で継続的な関わりが必要不可欠である。本研究は、対象生徒3名と授業者4名という人数で行ったため、事前の打合せを3回行い、筆者から生徒に関わるときの言葉掛けや情報提示の仕方を説明するなど綿密に準備を行うことで、共通認識の下で実践することができた。さらに、学年や学部へ対象を広げていく際は、関わる教員や児童・生徒が増えるため、意図的で継続的な関わりができるように、効率的な情報共有の方法を検討する必要がある。

## (2) よりよい教材や提示の方法

今回はステップシートを使用することが、生徒が自分の行動を振り返り、客観的評価との差異を認識することにつながった。ステップシートは、児童・生徒の実態に合わせて内容の検討や表現の工夫などの見直しが必要であり、より細分化したり段階的に抽象化したりすることも考えられる。

将来の職業生活で求められる力の中には、例えば「気持ちの切り替え方」など段階で示すものではない項目もある。これらの項目をどのように反映させていくのかを検討する必要がある。実際に使用する生徒が、使いやすく分かりやすいステップシートになるように生徒の声も聞きながら改善し続けていきたい。

また、ステップシートの行動目標を作業の目標につなげることに課題があった。作業の目標を設定する際にステップシートの行動目標を意識できるような手立てを検討する必要がある。

本研究の課題を踏まえて、継続して活用していきけるように、実践を通して改善し続けていく。

## おわりに

本研究を進めるに当たり、検証授業に多大な御協力いただいた平塚支援学校の生徒、教職員をはじめ、本研究に関わっていただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

[指導担当者]

日下田 多恵子<sup>2</sup> 諸星 洋輔<sup>3</sup> 柴山 洋子<sup>4</sup>

## 引用文献

- 国立特別支援教育総合研究所編 2011 「特別支援教育 充実のためのキャリア教育ガイドブック」 ジアース教育新社 pp. 49-50
- 中央教育審議会 2011 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」 p. 60  
[https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/11402417/www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/](https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/11402417/www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/)

- toushin/\_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878\_1\_1.pdf (2023年11月17日取得)
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 2019 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」 p. 11  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602\\_1\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf) (2023年11月17日取得)
- 文部科学省 2020 『特別支援学校学習指導要領(平成31年告示)解説知的障害者教科等編(上)(高等部)』 ジアース教育新社 p. 29
- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 2021 「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」 p. 131  
[https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt\\_tokubetu01-000016487\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_tokubetu01-000016487_01.pdf) (2023年11月17日取得)
- 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編 2015 「生徒指導リーフ『自尊感情? それとも、『自己有用感?』」
- 菊野雄一郎 2020 「知的障がいに関わる認知発達障がいに関する近年の動向: メタ認知はいかに知的障がいを支援するのか」(『島根県立大学松江キャンパス研究紀要』第59号) p. 52  
[https://ssl.u-shimane.ac.jp/img/old\\_post\\_img/20230402152613\\_3/vol.59.pdf](https://ssl.u-shimane.ac.jp/img/old_post_img/20230402152613_3/vol.59.pdf) (2023年11月29日取得)
- 向後礼子 2014 「発達障がいのある人の学校から就労への移行支援並びに就労後の職場適応支援の課題」(『日本労働研究雑誌』2014年5月号) p. 78  
<https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2014/05/pdf/076-084.pdf> (2023年11月17日取得)

## 参考文献

- 神奈川県教育委員会特別支援教育課 「体験実習(職業能力評価)評価票」
- 社会福祉法人多摩棕櫚亭協会就労移行支援事業所ピアス 「職業準備性チェックリスト」  
<http://voccouncil.org/cases/pierce/checklist.pdf> (2023年11月17日取得)
- 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 2009 「就労支援のための訓練生用チェックリスト」  
[https://www.nivr.jeed.go.jp/research/kyouza/p8ocur0000000y1k-att/kyouzai30\\_01.pdf](https://www.nivr.jeed.go.jp/research/kyouza/p8ocur0000000y1k-att/kyouzai30_01.pdf) (2023年11月17日取得)
- 会沢信彦・岩井俊憲編著 2014 『今日から始める学級担任のためのアドラー心理学』 図書文化社 pp. 102-104

---

2 指導主事 3 主査(兼)指導主事  
4 教育指導専門員

## 検証授業計画

授業者：久保山 理菜

- 1 研究テーマ 知的障害のある高校生が自己の現状や課題を認識するための取組
- 2 サブテーマ ー職業の授業における行動目標を明確にしたステップシートと生徒と教員との振り返りを通してー
- 3 教科名 「職業」
- 4 研究のねらい（身に付けさせたい力）
  - ・ステップシートの活用や教員との振り返りを通して、自己の現状や課題を認識できるようにする。
  - ・ステップシートの活用や教員との振り返りで認識した課題を、作業の行動目標へつなげることができるようにする。
- 5 研究の仮説
  - ・行動目標を明確にしたルーブリック形式のステップシートを使用し、併せて教員が「具体的」「視覚的」「肯定的」に生徒と振り返りを行うことで、知的障害のある生徒が自己の現状や課題を認識することができるだろう。
- 6 検証の視点

1 手立ての検証
<ul style="list-style-type: none"><li>○ステップシート<ul style="list-style-type: none"><li>・ステップシートの記入時の生徒の様子</li><li>・生徒が立てる目標の変容</li><li>・担当教員対象の聞き取り</li></ul></li><li>○教員の具体的・視覚的・肯定的なフィードバック<ul style="list-style-type: none"><li>・振り返り時の生徒の様子</li><li>・担当教員対象の聞き取り</li></ul></li></ul>
2 目指す生徒像の検証 「自己の現状や課題を認識することができる生徒」
<p>（検証するために目標設定の様子や行動を見取る）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○事前・事後のステップシートの比較</li><li>○作業日誌の記入内容の変化</li><li>○映像記録から生徒の実践への取組の変化・行動変容</li><li>○担当教員対象の聞き取り</li></ul>

## 7 検証授業の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A	就労に向けて必要となる行動や態度を理解することができる。	現状を理解して、自分の作業での目標を立てることができる。	ステップシートの活用や教員との振り返りを通して、自己の現状を認識しようとしている。
B	就労に向けて必要となる行動や態度を理解することができる。	ステップシートから自分の作業での目標を立てることができる。	ステップシートの活用や教員との振り返りを通して、自己の現状を認識しようとしている。
C	就労に向けて必要となる行動や態度を知ることができる。	教員と一緒にステップシートから自分の作業での目標を立てることができる。	ステップシートの活用や教員との振り返りを通して、自己の現状を認識しようとしている。

## 8 検証授業の指導と評価の計画

	日	学習活動	評価のポイント・指導上のポイント
事前	9月14日	・自分の得意なことや不得意なこと、将来のことを「自分を知ろう」ワークシートに記入する。	<p><b>【指導上のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で自分のことをどのように捉えているのか「自分を知ろう」ワークシートで確認できるように提示する。</li> <li>・今の時点で将来についてどう考えているのか記入できるように言葉かけをする。</li> </ul> <p><b>【評価のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を知ろう」ワークシートの内容について、自分の言葉で表現することができたか。</li> </ul>
1日目	9月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容について知る。</li> <li>・3グループに分けて1つずつ確認をしながら、ステップシートを記入する。 (1グループ 3～4名)</li> </ul>	<p><b>【指導上のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全てできることが良いことではなく、自分の得意不得意が分かることが重要であると事前に伝える。</li> <li>・3グループに分かれ、各グループに教員が1名入りステップシートの記入を促す。</li> </ul> <p>&lt; A・B &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を振り返り、当てはまると思うところに丸を付けることができるように説明する。</li> </ul> <p>&lt; C &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丸を付ける位置を指して確認しながら、1つずつ丁寧に説明をする。</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が記入したものと自分が記入したものの内容を比較する。</li> <li>・教員と1対1で振り返りをする。</li> <li>・その間、待っている生徒は色鉛筆で一致しているところや差があるところが分かるように色を塗る。</li> <li>・作業での目標を立てる。</li> </ul>	<p><b>【評価のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の今までの取組について考えステップシートに記入することで、自己の現状を認識しようとする姿勢が見えたか。</li> </ul> <p><b>【指導上のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩の間に事前に教員がつけたものを、生徒のプリントに転記する。</li> <li>・ステップシートを活用しながら、具体的に例を出して振り返りをする。</li> <li>・振り返りでは、生徒の記入したことや気持ちを認め、勇気づけの言葉を意識する。</li> <li>・どこを色鉛筆で塗ったら良いか分かるように手本を置く。</li> </ul> <p><b>【評価のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の記入と教員の記入の違いを見つけることができたか。</li> <li>・教員との振り返りで自分の考えを伝えることができ、他者の意見を受け入れて自己の現状を認識しようとする姿勢が見えたか。</li> <li>・自分の作業での目標を立てることができたか。</li> </ul>
2 日 目 か ら 6 日 目	9 月 26 日 か ら 10 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業日誌に目標を記入する。</li> <li>・清掃活動</li> <li>・作業日誌の記入と振り返り</li> </ul>	<p><b>【指導上のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業の内容を作業日誌の目標に活かせるように言葉かけをする。</li> </ul> <p><b>【評価のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業の授業を通して認識した課題をふまえた目標設定をしているか。</li> <li>・具体的な行動目標を記入しているか。</li> </ul> <p><b>【評価のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標としている行動がどのくらい出ているか、映像記録を元に確認する。</li> </ul> <p><b>【指導上のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りでは、生徒の記入したことや気持ちを認め、勇気づけの言葉を意識する。</li> <li>・ステップシートを活用しながら、具体的に</li> </ul>

			<p>例を出して振り返りをする。</p> <p><b>【評価のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目標に向けての行動を振り返ることができているか。</li> <li>・教員との振り返りを通して、次の目標を立てているか。</li> </ul>
7 日 目	10 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回と同様のグループに分かれ、1つずつ確認をしながら、チェックシートを付ける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が記入したものと自分が記入したものの内容を比較する。</li> <li>・教員と1対1で振り返りをする。</li> <li>・その間、待っている生徒は色鉛筆で一致しているところや差があるところを分かるように色を塗る。</li> <li>・前回のステップシートと今回のステップシートを比較する。</li> </ul>	<p><b>【指導上のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3グループに分かれ、各グループに教員が1名入りステップシートの記入を促す。</li> </ul> <p>&lt; A・B &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を振り返り、当てはまると思うところに丸を付けることができるように説明する。</li> </ul> <p>&lt; C &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丸を付ける位置を指しで確認しながら、1つずつ丁寧に説明をする。</li> </ul> <p><b>【評価のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことについて考えステップシートに記入することで、自己の現状を認識しようとする姿勢が見えたか。</li> </ul> <p><b>【指導上のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩の間に事前に教員がつけたものを、生徒のプリントに転記する。</li> <li>・転記したものをコピーしておく。</li> <li>・ステップシートを活用しながら、具体的に例を出して振り返りをする。</li> <li>・振り返りでは、生徒の記入したことや気持ちを認め、勇気づけの言葉を意識する。</li> <li>・VTRを使用し、自分のことを客観的に見ることができるようにする。</li> <li>・どこを色鉛筆で塗ったら良いか分かるように手本を置く。</li> <li>・コピーしたものをハサミで切り、前回のものと重ねることで比較できるようにする。</li> </ul> <p><b>【評価のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員との振り返りで自分の考えを伝えることができ、他者の意見を受け入れて自己の現状を認識しようとする姿勢が見えた</li> </ul>

			か。 ・前回との違いを見つけることができたか。
事後	10月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の自分について考える。</li> <li>・ステップシートで変わったところや、校内実習での目標を考える。</li> </ul>	<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のステップシートを見て変わったところを考える。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の現状や課題について振り返り、自分に必要な力は何かを考え目標を設定することができたか。</li> </ul>

## 振り返りについて

### 1 振り返りのねらい

#### 【職業の授業での振り返り】

- ・「ステップシート」を用いた他者評価を通して客観的に捉えることで、生徒が自己の現状と課題を認識できるようにする。
- ・生徒が振り返りで認識した課題を、作業の目標設定につなげることができるようにする。

#### 【作業日誌を活用しての振り返り】

- ・生徒が自己の目標に対する行動を、作業日誌を用いた他者評価を通して客観的に捉えることができるようにする。
- ・生徒が振り返りで認識した課題を、次回の作業の行動目標につなげることができるようにする。

### 2 特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（上）（高等部）から

知的障害のある生徒の学習上の特性として、学習の過程では、生徒が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛したりすることで、生徒の自信や主体的に取り組む意欲を育むことが重要となる。

### 3 教員の「フィードバック」3つの柱

「具体的」「視覚的」「肯定的」

#### 【具体的】

- ・「今日の作業で、〇〇先生に自分から相談しに行っていたね」
  - ・「今日の作業で、〇〇先生が来たときにあいさつができた？」
    - ☞ 抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的である。
- 特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（上）（高等部）

#### 【視覚的】

- ・VTRや「ステップシート」を見ながら振り返りをする。
    - ☞ 情報・コミュニケーション及び教材の配慮として、視覚化の活用が挙げられている。
- 「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 2021年6月

#### 【肯定的】

- ・勇気づけの言葉かけ
  - ① 過程を重視する
    - 「頑張っているね」「一生懸命やっていたね」など、結果ではなく過程に注目し、勇気

づけます。

「いつも百点でえらいね」よりも「努力しているね。がんばったんだね」のように。

② 加点主義（ダメ出しではなくヨイ出しをする）

「この部分はいいと思うよ」「ここが進歩しているね」など、できていないことを指摘するよりも、いま、できていることに注目します。

③ 貢献に注目する

「手伝ってくれてありがとう」「助かったよ。うれしい」など、協力してくれたことに注目します。

④ 失敗を受け入れる

「残念だったね」「この後、どうしたらいいと思う？」など、失敗をとがめるのではなく、失敗から学べるように勇気づけます。

⑤ 相手に判断を委ねる

「〇〇さんはどう思う？」「自分で決めた方法でやっごらん」など、できるだけ、子ども自身に任せます。

⑥ 肯定的に表現する（リフレーミング）

臆病→計画性がある・慎重 人見知り→慎重・謙虚 がんこ→信念がある・意思が強い など 子どもの長所を発見し、それを認めます。

⑦ 聴き上手

「そうか、そうだったんだ」「そう思っていたんだね」などと、共感的にかかわります。自分の話したい誘惑をコントロールし、相手を話し上手にさせる対応をします。

⑧ 人格を重視する

「まじめだね」とレッテルを貼るよりも「毎日コツコツと努力しているね」のように伝えるとよいでしょう。

「あなたは悪い子だ」ではなく、「あなたのしたことはよくないことだ」のように、人格と行為を分けます。

☞ 「学級担任のためのアドラー心理学」 会沢信彦・岩井俊憲 2014年

☞ 子どもは、その子なりの発想をもっており、それが認められることによって、知的好奇心が高まります。教師は個性的・多面的な発想を受け止め、認めるように心がけることが大切です。

「学ぶ意欲をはぐくむ～「学習に関するアンケート」を活用して～」 栃木県総合教育センター研究調査部 2011年

☞ 自己概念と重要な他者からの賞賛・叱責および他者意識の程度との関係について検討したところ、より賞賛が多く、叱責の少ない対象児ほど学業と運動領域の自己概念を高めることが明らかになった。

「知的障害児の自己概念とその影響要因に関する研究～自己叙述と選択式測定法による検討～」 小島道夫 2010年

令和5年度 高B 第1学年 Iグループ 「職業科」 指導案（略案）

- (ア) 知識・技能  
 (イ) 思考力・判断力・表現力等  
 (ウ) 学びに向かう力・人間性等

- 1 日 時：令和5年9月21日（木） 2・3時間目  
 2 場 所：高B1年2組 教室  
 3 題材名：「自分を知ろう」  
 4 ねらい：・職業生活に必要とされる行動や態度を理解しようとする。（ア）  
           ・「ステップシート」の活用や教員との振り返りを通して、自己の現状や課題を認識しようとする。（イウ）  
           ・「ステップシート」の活用や教員との振り返りで認識した課題を、作業の行動目標の設定につなげようとする。（イウ）

5 本時の展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点等	準備物
導入	○始めの挨拶をする。  ○今回の学習のめあてを知る。 ・自分を知るための授業であること。 ・良い悪いではないこと。 ・苦手なことを知ることも大切であること。	・日直の生徒に周りを見てから挨拶するように促す。 ・授業に必要な物が手元にあるか確認する。  ・テレビとプリントを活用しながら授業の要点を説明する。 ・机間指導をし、生徒から質問等があれば答える。（ST）	TV iPad プリント
展開	○ステップシートを付ける。 ・3グループに分かれる。 ・教員の説明を聞きながらひとつずつ記入する。	・グループで席を近くにする。 ・先に進まないように1つずつ確認して取り組む。 ・理解が難しい生徒がいれば個別に説明をする。	
休憩	○休憩 10分	・教員が生徒の「ステップシート」に、事前に教員で付けた内容を転記する。	
展開	○教員と振り返りをする。 ・教員と生徒が1対1で話をする。	・「ステップシート」を見ながら具体的に振り返る。	

<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待っている生徒は、「ステップシート」の記入内容を確認し、色鉛筆で塗り分ける。</li> </ul> <p>○授業の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の目標を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りでは、教員は勇気づけの言葉を意識して生徒に伝えられるようにする。</li> <li>・待っている生徒には色塗りの見本を提示して、自分で塗り進められるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一致しているマスは赤</li> <li>② 一致していないマスは青</li> </ul> </li> <li>・塗り終わったらどこが一緒でどこが違うのかなどを考えられるように言葉かけをする。</li> <li>・時間がある生徒は、作業での目標を考え始められるように言葉かけする。</li> </ul> <p>・「ステップシート」の振り返りを通して、作業で特に力を入れたいものを目標に設定できるようにする。</p>	
------------	---	--	--

令和5年度 高B 第1学年 Iグループ 「職業科」 指導案（略案）

- (ア) 知識・技能  
 (イ) 思考力・判断力・表現力等  
 (ウ) 学びに向かう力・人間性等

- 1 日時：令和5年10月11日（水） 2・3時間目  
 2 場所：高B1年2組 教室  
 3 題材名：「自分を知ろう」  
 4 ねらい：・職業生活に必要とされる行動や態度を理解しようとする。（ア）  
           ・「ステップシート」の活用や教員との振り返り、前回の「ステップシート」との比較を通して、自己の現状や課題を認識しようとする。（イウ）  
 5 本時の展開



時間	学 習 活 動	指導上の留意点等	準備物
導入	<p>○始めの挨拶をする。</p> <p>○ウォーミングアップ                      ・はたあげゲーム</p> <p>○前回の復習をする。                      ・自分を知らための授業であること。                      ・良い悪いではないこと。                      ・苦手なことを知ること大切であること。</p>	<p>・日直の生徒に周りを見てから挨拶するように促す。</p> <p>・自分から見えるのと人から見えるのが違うということを伝える。                      ・正解不正解ではなく、考えるのが大切だということを伝える。</p> <p>・テレビを活用しながら授業の要点を説明する。                      ・「めあて」を黒板に書くことで、意識できるようにする。                      ・机間指導をし、生徒から質問等があれば答える。（ST）</p>	<p>TV                      iPad                      プリント</p>
展開	<p>○「ステップシート」に記入する。                      ・3グループに分かれる。                      ・教員の説明を聞きながらひとつずつ記入する。</p>	<p>・グループで席を近くにする。                      ・先に進まないように1つずつ確認して取り組む。                      ・内容を全部読むのではなく生徒の様子を見て必要であれば補足で説明をする。                      ・理解が難しい生徒がいれば個別に説明をする。                      ・生徒が記入するときには黒のサインペンを使用する。</p>	









	<p>○「タイプシート」に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MTの説明を聞き、説明を聞き終わったら記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先に進まないように1つずつ確認して取り組む。</li> <li>・MTは具体的なイメージができるような説明をする。</li> <li>・理解が難しい生徒がいれば個別に説明をする。(ST)</li> </ul>	
<p>休憩</p>	<p>○休憩 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が生徒の「ステップシート」に、事前に教員で付けた内容を青のサインペンで転記する。</li> <li>・「タイプシート」には記入しない。</li> </ul>	
<p>展開</p>	<p>○教員と振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と生徒が1対1で話をする。</li> <li>・待っている生徒は、「ステップシート」の記入内容を確認し、色鉛筆で塗ったり校内実習の目標を考えたりする。</li> <li>・前回の「ステップシート」の内容と比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ステップシート」や実践時の映像を見ながら具体的に振り返る。</li> <li>・振り返りでは、教員は勇気づけの言葉を意識して生徒に伝えられるようにする。</li> <li>・キーワードを教員が付箋に書いて「ステップシート」に貼っていく。</li> <li>・自分の得意なことを考えられるような言葉かけをする。</li> <li>・待っている生徒は一致しているマスを赤色に塗るように見本を提示して、自分で塗り進められるようにする。</li> <li>・塗り終わったら校内実習の目標を考えるように言葉かけをする。</li> <li>・教員との話の中でクリアファイルを、今回の「ステップシート」と重ねて比較する。</li> </ul>	<p>iPad 3台 映像  色鉛筆</p>
<p>まとめ</p>	<p>○授業の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ステップシート」をつけてみてどうだったか、自分の感想をグループで話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ステップシート」をつけてみて変わったことはあるか、自分のことをより理解できたかなどの感想を言えるように言葉かけする。</li> </ul>	<p>クリアファイル</p>

# ステップシート



## 1. 身辺について

		1	2	3	4	5
1	<b>体調の管理</b> 	周囲の人から言われて 体調の変化に気づく	自分では伝えられないが 体調の変化に気づく	体調の変化に気づいて 体調が悪いとなんらかの 表出をする	体調の変化に気づいて 自分から他者に伝える	体調の変化に気づき 自分がどうしたいか 他者に伝える
2	<b>身だしなみ</b> 	周囲の人から言われて 身だしなみの乱れに 気づく	身だしなみの乱れに気づ いて他者に直してもらう	言われれば身だしなみを 自分で整える	自分で身だしなみを 整える	自分で身だしなみを 整えて鏡で確認する

## 2. 仕事に関して

		1	2	3	4	5
1	<b>出席状況</b> 	遅刻・欠席・早退 月に8回以内	遅刻・欠席・早退 月に4回	遅刻・欠席・早退 月に2回	遅刻・欠席・早退 月に1回	遅刻・欠席・早退 月に1回もない
2	<b>持続力</b> 	1時間程度なら 作業を続けられる	作業速度は落ちるが 半日作業を続けられる	作業速度は落ちるが 1日作業を続けられる	一定のペースで 半日作業を続けられる	一定のペースで 1日作業を続けられる
3	<b>正確性</b> 	ミスは多いが 自分がミスした ところがわかる	周囲の人から言われて ミスを減らせる	周囲の人から言われて ミスなく作業する	ミスしないように自分で 工夫しミスを減らせる	ミスしないように自分で 工夫しミスなく作業する
4	<b>指示理解</b> 	1つずつ手順を一緒に 確認すると指示がわかる	個別指示を聞けば 指示がわかる	全体指示と手順書が あれば指示がわかる	全体指示を繰り返し 聞けば指示がわかる	全体指示を1回聞けば 指示がわかる
5	<b>ハウレンソウ</b> 	自分からは行動できな いがハウレンソウが 必要な場面だとわかる	自分から合図をして 気づいてもらうのを待つ	伝え方が分からないが 自分から合図する	伝え方が分かり自分から ハウレンソウをする	自分から相手に身体を 向けて止まって ハウレンソウをする
6	<b>ルールを守る</b> 	ルールがあることが わかる		ルールを守れないことも あるが ルールを守ろうとしている		決められたルールを 守ることができる

## 3. 対人関係について

		1	2	3	4	5
1	<b>あいさつ</b> 	相手の方を見る	おじぎをする	知っている人には 自分からあいさつする	だれに対しても 自分からあいさつする	いつでもだれにでも 相手の顔を見て 自分からあいさつする
2	<b>返事</b> 	返事はできないが うなづくことができる		できないときもあるが 返事ができるときもある		いつでも 返事ができる
3	<b>ていねいな 言葉</b>	友だち <small>くちょう</small> 口調で話す	友だち <small>くちょう</small> 口調とていねいな 言葉どちらも使って話す	言われれば ていねいな言葉で話す	目上の人には ていねいな言葉で話す	だれに対しても ていねいな言葉で話す

月 日 ( )

さぎょうないよう  
〈作業内容〉

きょう もくひょう  
〈今日の目標〉

〈ステップシートより〉

○△×

たんとう  
担当より

きょう はんせい  
〈今日の反省〉

きょう もくひょう たっせい  
今日の目標を達成  
できた。

じかい もくひょう  
〈次回の目標〉

たんとう  
〈担当から〉

かてい  
〈家庭より〉

自分を知らう 振り返りシート

1	「ステップシート」で自分が今できていることやできていないことを知ることができましたか？	知ることができた	知ることができなかった	よくわからない
2	先生との振り返りをする中で、自分が今できていることやできていないことを知ることができましたか？	知ることができた	知ることができなかった	よくわからない
3	自分の得意なことや苦手なことはどんなことでしたか？	(得意なこと)		
		(苦手なこと)		
4	「ステップシート」の説明は具体的で分かりやすかったですか？	分かりやすかった	分からなかった	どちらともいえない
5	「ステップシート」の説明を読んで、自分に当てはまる項目を選びやすかったですか？	選びやすかった	選びにくかった	どちらともいえない
6	5のように思ったのはなぜですか？			
7	「ステップシート」から作業の目標を立てることができましたか？	できた	できなかった	よくわからない

感想

--

名前